

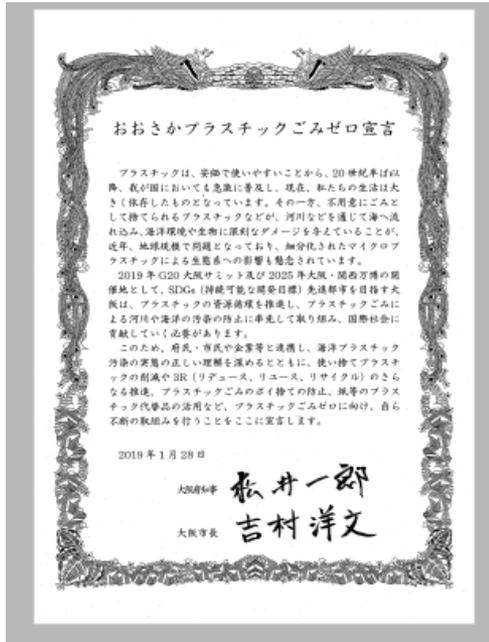
大阪市「プラスチックごみ削減目標」 について

令和元年5月

大阪市環境局

1. プラスチックごみゼロ宣言
2. 大阪市「プラスチックごみ削減目標」 (案)
3. 具体的な取組

1 プラスチックごみゼロ宣言



○プラスチックごみゼロ宣言

- ・大阪市と大阪府共同で、2019年G20大阪サミット及び2025年大阪・関西万博の開催地として、プラスチックごみゼロに向け、使い捨てプラスチック削減のさらなる推進を行うことなどを盛り込んだ「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を実施
- ・プラスチックごみゼロをめざし具体的な行動を実施することとした。



○実施内容の例

- ・エコバッグを常に携帯する運動の推進（大阪エコバッグ運動）
- ・新たなペットボトル回収・リサイクルシステムの構築
- ・大阪市としてのプラスチックごみ削減目標

など

2 大阪市「プラスチックごみ削減目標」 (案)

2025年度までに

- ① ワンウェイのプラスチック(容器包装等)を25%排出抑制(リデュース)する。
(2005年度比)
- ② 容器包装プラスチックの60%を資源化(リサイクル)する。
- ③ また、ペットボトルを100%資源化(リサイクル)する。
- ④ なお、残りのプラスチックごみについては引き続き削減・資源化を進めるが、
熱回収を含め100%プラスチックごみの有効利用を図る。

※削減対象＝大阪市が収集するプラスチックごみ

1. はじめに

①背景

○現在、プラスチックごみによる海洋汚染が世界全体の課題となっており、2018年に開催されたG 7において、「海洋プラスチック憲章」が提起されるなど、プラスチック問題に対する国際的な対処が必要となっている。

○本年6月に開催されるG 2 0大阪サミットでこれらの問題が取り上げられることとなっており、プラスチック資源循環の取組が求められている。

②国の動き

○「第4次循環型社会形成推進基本計画」では、「プラスチック資源循環戦略」を策定し、これに基づく施策を進めていくこととしている。

○2018年7月、「中央環境審議会」へ諮問。「プラスチック資源循環戦略小委員会」を設置し審議。

○本年3月、「中央環境審議会」から「プラスチック資源循環戦略」（案）を答申。

○「プラスチック資源循環戦略」（案）の項目として、

- ・レジ袋の有料化義務化（無料配布禁止等）を通じて、消費者のライフスタイル変革を促す。
- ・2030年までに、ワンウェイのプラスチック（容器包装等）を25%排出抑制する。
- ・2030年までにプラスチック製容器包装の6割をリユースまたはリサイクルする。
- ・2035年までに全ての使用済みプラスチックを熱回収も含め100%有効利用する。

○G 2 0までに、政府として「プラスチック資源循環戦略」を策定する予定。

③本市のこれまでの対応

○2005年度から容器包装プラスチック分別収集の全市実施。

○容器包装プラスチックの分別収集の自治体負担のあり方について、国へ要望活動を主導。

○2017年11月、環境省モデル実証事業（製品プラスチック一括回収及び選別一本化）へ参加。

○2019年1月、大阪府と「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を共同で宣言。



出典：海上保安庁

2. 大阪市が収集しているプラスチックごみの状況（平成29年度）

| 用途（※） | 排出量推計 | 品目の例 | 収集後の処理 |
|-------------------------|-----------------|---------------------------------------|-----------------|
| ワンウェイ | 57,300トン | 容器包装プラスチック、ペットボトル、使い捨ての商品（ストロー、スプーン等） | 選別後、資源化、焼却（熱回収） |
| その他 | 8,300トン | その他商品（おもちゃ、洗面器、ケース等） | 焼却（熱回収） |
| プラスチック類 収集量推計 小計 | 65,600トン | | |

※「ワンウェイ」＝通常一度使用した後にその役目を終えることをいう

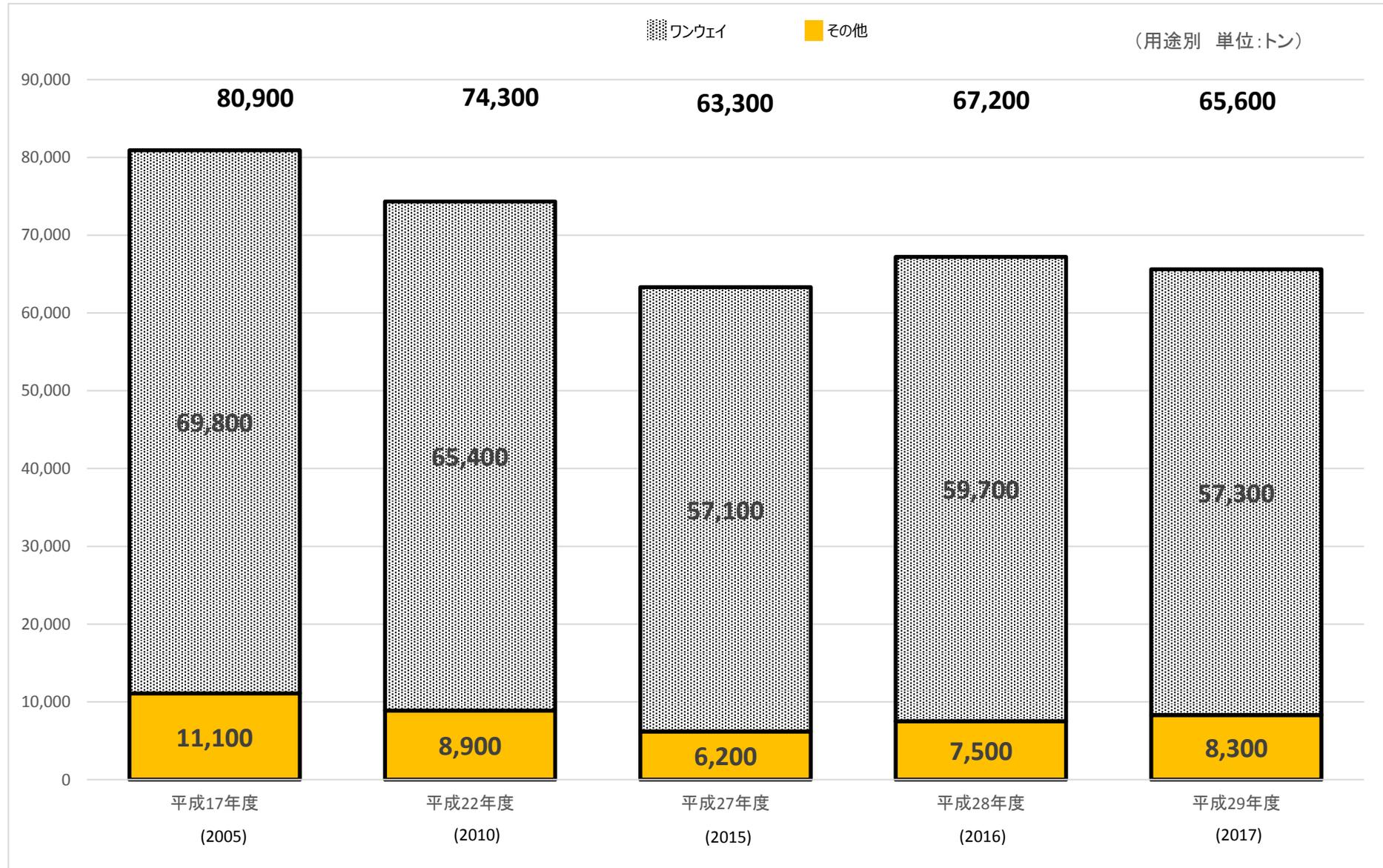
※排出量推計 平成29年度組成分析調査【大阪市環境局】より算出

（参考値）許可業者が収集しているプラスチックごみの排出量推計（平成29年度）

79,800 t ※排出量推計 平成25年度組成分析調査【大阪市環境局】等より算出

事業所から排出された廃プラスチック類（産業廃棄物）については、適正ルートでの処理を推進

3. 大阪市が収集するプラスチックごみ量の推移



4. 大阪市「プラスチックごみ削減目標」策定にあたっての考え方

1. 対象

大阪市が収集するプラスチックごみ

2. 目標年次

大阪・関西万博が開催される 2025年度を目標年次とする。

(現在の大阪市一般廃棄物処理基本計画の目標年次でもあり、「プラスチック資源循環戦略(案)」の目標年次を5年前倒しする。)

3. 基準年度

2005年度(容器包装プラスチック分別収集全市実施の2005年度を基準年度とする。)

4. 削減目標

(1) リデュース・リサイクル 2005年度比▲17,500 t ▲**25%超**(2017年度から2025年度までの8年間でさらにワンウェイプラスチック▲5,000 t)

・常にマイバッグを携帯する運動を推進することにより、レジ袋の発生を抑制する。(大阪エコバッグ運動)

2017年度 6,900 t → 2025年度 1,900 t ▲5,000 t

・不要な使い捨てプラスチックを「使わない」「もらわない」という行動の呼びかけや、リユース食器等の利用、プラスチック代替品の使用などを市民等に啓発することにより、使い捨てプラスチックごみの発生を抑制する。

・リユース可能な食器や容器の使用を呼びかけるなどの啓発を行うことにより、プラスチックごみの削減に繋げる。

(2) リサイクル 2025年度の容器包装プラスチックの60%を資源化

① 区ごとの減量目標

区ごとの減量の取組などを推進し、プラスチックの資源循環を一層推進して分別排出率を向上し、資源化を進める。

容プラ分別排出率 … 2005年度 分別排出率 36%(資源化量16,300 t) → 2025年度 分別排出率 **60%**(資源化量22,600 t)
(2017年度 分別排出率 46%)

② ペットボトル資源循環

コミュニティビジネスの要素を取り入れた「新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」の構築により、地域へのインセンティブを生み、分別に対する意識の向上を図ることでペットボトルのリサイクルを推進する。

ペットボトル … 2005年度 資源化量4,900 t (63%リサイクル) → 2025年度 資源化量7,900 t (**100%リサイクル**)